

セレナはいつものように昼休み、一人で学校の一番上の階に上った。そこは彼女の秘密基地だ。屋上のプールは長い間、使われておらず、階段は埃ほこりで覆おおわれている。その階段の片隅かたすみで毎日昼食を食べていた。大きな窓越しに青い海や海岸へ打ち寄せる波を眺めたり、聞こえてくるかこないかの微かすかな海の音を聞いたりする。

セレナは海が好きだ。海の青さと静けさが好きなのだ。ここは人が少なく、誰にも邪魔されずに、静かな気持ちでいられる。

しかし、その日は違っていて、階段を上がっていくときに誰かが付いてきているような

